

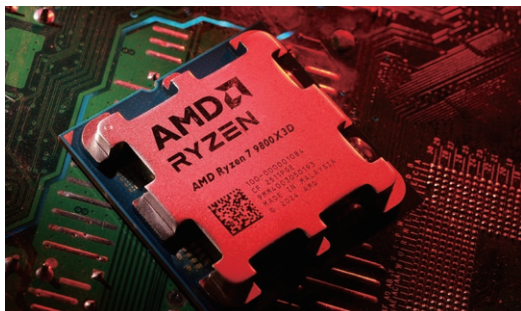
リサ・スー

アドバンスト・マイクロ・デバイセズ会長兼CEO

半導体に魅了され エンジニアの道へ

世界有数の半導体メーカー、アドバンスト・マイクロ・デバイセズ (AMD)。データセンターやパソコン向けのCPU (中央演算処理装置)・GPU (画像処理半導体) を中心に事業を展開し、近年はAI向け半導体の分野でエヌビディアの対抗馬としても注目される。米国市場に上場する半導体関連企業のうち、エヌビディア、ブロードコムらに次ぐ第4位の評価だ。

勢いづく同社だが、実は2010年代初頭に破綻寸前まで追い込まれていた。社運を賭けて開発した次世代CPUの設計失敗、大型買収や自社工場の分離に伴う巨額の負債などが重なり、業績が低迷。財務が悪化し、2014年には株価が数米ドルにまで暴落していた。この危機を救ったのが2014年10月からCEOを務めるリサ・スー氏 (56歳) だ。



「復活」のきっかけとなったAMDの主力CPU「Ryzen」

1969年に台湾に生まれたスー氏は幼少期に米国へ移住。数学・科学の分野で才能を発揮し、マサチューセッツ工科大学 (MIT) に進学する。“困難に向かって飛び込む”のが習性であったスー氏が選んだのは「MITでも最難関の一つ」といわれる電気工学。「コインサイズのチップが世界を変えることに魅了された」と半

導体と出合った大学時代を振り返る。

危機は“変革のチャンス” リスクを恐れず改革進める

24歳でMITの博士号を取得した後は、エンジニアとしてキャリアを開始。IBMやフリースケール・セミコンダクタなどでマネジメント経験を積み、2012年に上級副社長としてAMDに入社する。CEOに就任した2014年当時、スー氏は倒産寸前であったAMDの危機を「変革のチャンス」ととらえた。乱立する製品群を整理し、ゼロベースから高性能プロセッサの研究開発に取り組んだ結果、2017年に発表した新アーキテクチャー「Zen」を搭載したCPU「Ryzen」は、高性能と低コストが評価され、CPUのシェアは1ケタ台から30%以上にまで回復。宿敵インテルからのシェア奪還を果たし、長年の赤字にも終止符を打った。新たな成長戦略のもと、2020年に半導体大手サイリンクスの買収を決断。半導体企業では史上最大とされるM&Aは同社を総合的なプラットフォーム企業へと進化させた。

スー氏の次なる挑戦のフィールドはAI向け半導体だ。「エンジニアの直感を信じ、最も難しい問題に向かって走れ」を座右の銘に、王者エヌビディアへと挑む。



2026年1月、「CES2026」でスピーチを行うスー氏

困難な道を選ぶのが「エンジニア魂」
危機を乗り越え、エヌビディアに挑む

Profile

リサ・スー 1969年台湾生まれ。幼少期に渡米し、統計学者の父と会計士の母のもとで育つ。1986年MITに入学し、博士号まで取得。IBMで主にキャリアを積み、フリースケール・セミコンダクタCTOを経て2012年AMD入社。2014年同社CEO。2024年TIME誌のCEO of the Yearなど数々の賞を受賞。エヌビディアのジェンソン・フアンCEOは遠い親戚である。

主な参考文献: 日本経済新聞、日経クロストrend、MIT卒業式祝辞(2026年度)など

写真:ロイター/アフロ、AFP/アフロ